

(様式1)

平成新山島原学生駅伝大会
新型コロナウイルス感染症予防対策案

◆駅伝大会開催の前提条件

1. 緊急事態宣言が発令されていない。
 - ①政府又は長崎県による移動制限の解除。
 - ②政府又は長崎県による外出自粛の解除。
 - ③政府又は長崎県による店舗営業自粛の解除。
2. 島原市の自治体から大会開催が認められ、自治体に対して開催が周知されている。
3. 島原市において、新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っている。感染者および感染疑い者が発生した場合に対応可能な医療機関が事前に定められている。

◆新型コロナウイルス感染症予防の基本方針

事前準備 (12/3 まで)

1. 関係者への体調管理チェックシート記載の連絡
2. 体調管理チェックシートの事前提出、事後記録
3. 新型コロナウイルス検査報告書の提出
4. マスクの持参、着用
5. 検温の実施
6. 手指の消毒
7. 3密（密閉、密集、密接）の回避

◆新型コロナウイルス感染症対策室の設置(危機管理体制)

1. 本大会における新型コロナウイルス感染症対策室を設置する。
(感染対策において実行委員会内における意思決定を明確にする。)
2. 同じく新型コロナウイルス感染症対策責任者を置く。
新型コロナウイルス感染症対策室
責任者 片平 誠人

◆感染症発生時の対応

1. 感染症対策室は、参加者から発症の報告を受けた場合の対応方針を開催自治体の感染症対策部局及び所管保健所と事前に検討する。
2. 大会終了後、2週間の健康観察期間に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、選手本人かチームの代表者が、感染対策室に対して速やかに連絡する。
3. 感染者が出た場合、開催自治体の感染症対策部局に連絡し、指示に従って協力する。
4. 感染症対策室は、自治体や保健所等と連携しながら、感染者の公表、その内容を決定する。情報の公表にあたっては、感染者に対して不当な差別及び偏見が生じないように

に個人情報の保護に留意する。

◆会場における感染予防策 式典における感染予防対策

1. マスクの着用の徹底
 - ①大会役員、関係者（選手・陸協審判・学生審判補助員・来賓等）すべての来場者に常時マスクの着用を義務付ける。
2. ソーシャルディスタンスの確保
 - ①会場では、あらかじめ※指定された座席に着席し、会話は控えること。
※式典要項に、例記載。
 - ②受付等、対面での対応が必要な場所にはパーティション等を設置する。
3. 検温・手指消毒の実施
 - ①文化会館入り口にて、検温を実施。手指の消毒を呼びかける。
37.5℃を超える場合及び体調不良は、入場を認めない。
4. 規模を縮小しての実施
 - ①開会式において、事前に申請する来場者名簿に名前のあった各参加校男女、正選手を含む10名までの出席を可能とする。
(※来賓関係においては、各団体10名以内の来賓を推奨する。)
 - ②閉会式において、区間賞（1名）及び優勝校（2名）・入賞校（1名）該当選手と希望に応じて該当選手の大学の関係者（2名）までの入場を可能とする。

競技中における感染予防対策

1. マスクの着用の徹底
 - ①大会役員、補助員、警備員、大会ボランティア などすべてのスタッフに常時マスク着用を義務付ける。
 - ②選手には、競技中（ウォーミングアップ、クールダウンを含む）以外のマスク着用を義務付ける。
 - ③チーム関係者、報道関係者も会場および周辺でのマスク着用を義務付ける。
 - ④選手と接触する可能性があるスタッフは フェイスガード、手袋などを着用する。
2. ソーシャルディスタンスの確保
 - ①会場では可能な限り他人との距離を確保し、必要以上の会話を避ける。
 - ②受付、健康に関する誓約書の受け渡しなど、対面での対応が必要な場所にはパーティションを設置する。
3. 検温の実施について
選手には、輸送バス乗車時に検温を実施する。大会役員、補助員、警備員、大会ボランティアなどに関しては、場に応じた検温を実施する。
4. 手指の消毒場所の確保
 - ①選手の待機場所、大会役員や運営スタッフが滞留する場所には可能な限りアルコール

ル等の手指消毒剤を用意する。

②布タオルは使用せず、使い捨てペーパータオルを用意する。

(※アルコール消毒液、ペーパータオル等の消耗品はスタート、中継所、ゴールなどに主催者が準備。マスクは参加者各自が用意する。ただし、主催者は緊急時に備えて予備のマスクを準備する)

5. スタート、中継所の仮設テント、ゴール

①各会場で密集が生じないように、人数制限を行う。

②選手や付き添い部員の距離が近くなりすぎないように呼びかける。使用した選手が長く滞留しないよう促す。

③使用者が触れる場所については、こまめに消毒する。

6. 仮設トイレ

①ドアノブ、レバーなどは、こまめに消毒する。

7. ごみの処理

①飲み残し飲料や鼻水、唾液などが付着したごみは自己責任で処理（原則として持ち帰り）するようにする。（トング・ゴム手袋等に対応する。）

8. その他

①喫煙所は設置しない。

②受付や監督会議及び代表委員総会等で使用する物品（テーブル、イスなど）、運行車両の室内はこまめに消毒する。

◆選手およびチーム関係者の対応事項

1. 選手は大会の2週間前からの体調管理および検温を実施し、九州学生陸上競技連盟ホームページ掲載の体調管理チェックシートに記入して各大学の代表者が管理する。
2. 選手及びチーム関係者は、必ず11月30日（火）から12月2日（木）までに「PCR検査」または「抗原検査」を実施し、陰性であることを確認するよう周知する。
3. 各大学の代表者は所属大学の選手および関係者の健康状態を確認し、提出用の体調管理チェックシート及び提出用の新型コロナウイルス検査報告書を主催者に提出するよう求める。
4. 体調管理チェックシート及び新型コロナウイルス検査報告書を提出しない出場内定校は出場を認めない。
5. 大会前日（12/3）の13:00～15:00にて、エントリー選手を対象とした検温を主催者側が実施する。検温結果に応じて、メンバー変更の有無を決定するよう求める。
6. 選手、チーム関係者へ場に応じた検温を実施する。異常があった場合には医師の指示に従う。
7. 同居家族や身近な知人に感染が疑われる場合や過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該該当者との濃厚接触がある場合には自主的に参加を見合わせるよう周知する。

8. 競技会場内に感染をしているかどうか不確かな選手、チーム関係者がいた場合は、その場で検温を実施し、状況により参加を許可しない。(不確かな選手の事例：一見して体調が悪そうに見える、咳、鼻水の症状(風邪の症状)が見られるなど。)
9. 大会終了後 2 週間の体調管理・検温を実施する。
10. 競技中を除きマスクの着用を義務とし、マスクをしていない人に対し注意を促す。手指の消毒の徹底を呼び掛ける。
11. 会場では、唾(つば)や痰(たん)を吐くことは慎む。
12. 接触確認アプリを推奨する。
13. 付き添い・監督への声を出しての応援禁止の呼びかけ。

◆大会関係者(競技役員、運営関係者及びボランティア)の対応事項

1. 感染予防対策を目的に個人情報を取得する必要がある、健康に関する情報は要配慮個人情報にあたるため、選手、チーム関係者、役員などから必ず同意を取る。
2. 大会会場への移動の際は公共交通手段の使用はなるべく避ける。自家用車で移動する大会要員は、道路事情を踏まえ、通勤災害の防止に留意する。
3. 体調管理チェックシートについては「参加校以外 陸協審判・学連関係者・来賓」に 2 週間分の体温を記載し、大会当日、持参し保管しておくよう周知する。場合によっては、提出を求めることがある。
(※ボランティアに関しては、別途実施委員会から案内される)
4. 大会終了後 2 週間以内に発熱などの症状があった場合、保健所、主催者へ報告する。
なお、体調管理チェックシート大会後【保管用】に各自記入し、保管しておくこと。
5. 輸送バスの運行は、3密を避けるなど感染症対策に十分配慮する。
6. 接触確認アプリの導入を推奨する。

◆観戦者への対応

1. 大学やチームを通じて無観客開催での周知徹底する。
2. 沿道での観戦、応援は 連盟 HP などでは応援自粛を呼びかけ、テレビ中継による観戦(ネット配信含む)を呼びかける。
3. 島原市営陸上競技場のスタート地点、島原文化会館のゴール地点では、駅伝スタッフを配置し、一般の観客は立ち入らないよう呼びかける。
4. 選手や付き添い部員、関係者による 3密状態が発生したり、発生しそうになったりした場合は、スタッフが解消を促す。
5. 沿道にて応援自粛が見られなかった大学は失格とする場合があることを周知する。

◆レースの管理

1. スタート前
 - ①待機場所では、他の選手、スタッフと密になることを避けるよう呼びかける。
2. フィニッシュ後

- ①フィニッシュ後は速やかに選手が混雑しない場所へ移動するよう誘導する。
 - ②競技中、フィニッシュ後に倒れ込んだ選手の対応は、防護体制を整えたスタッフで対応する。
 - ③レース終了後は、手指のアルコール消毒、手洗いを促す。
3. メンバー、記録の確認
- ①メンバー、記録を掲示することによる密集を避けるため、ウェブでの確認を促す。

◆当日の医療体制

- 1. 医師らが医療班用車両で随行する。異変があった場合には医師の指示に従う。
- 2. 当日の感染者発生に備え、医療用个人防护具（マウスシールド、手袋、マスクなど）を準備する。

◆メディア・取材への対応

- 1. 主催者の対応事項
 - ① 主催者は取材の事前申請を受け付ける。
- 2. 取材人数について
 - ① 人数をできる限り人数をすくなくするよう要請する。
- 3. 取材方法について
 - ① 報道受付では、事前に記載してきた取材申請者から個人別の体調管理チェックシートを受け取る。
 - ② インタビューはソーシャルディスタンスを確保する。マイク、スピーカ等の利用をする。
- 4. 取材・撮影エリア
 - ① 設定した撮影エリア内でのソーシャルディスタンスは、カメラマン同士で調整するよう促す。
- 5. 報道取材者への依頼
 - ① 取材時はマスクを着用する。
 - ② 11月27日(土)から12月3日(金)までに「PCR検査」または「抗原検査」を実施し、陰性であることを確認するよう求める。
 - ③ 大会開催2週間前の体調管理・検温と体調管理チェックシートの提出、大会終了後2週間の体調管理・検温を実施する。
 - ④ 大会前日(12/3)または大会当日(12/4)主催者に「新型コロナウイルス検査報告書」の提出を求める。
 - ⑤ 会場内では手指の消毒やせきエチケットなどを心がける。
 - ⑥ 取材人数・取材方法・取材エリアを遵守する。

◆その他注意事項

1. 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策には万全を期すが、万が一感染してしまったとしても、主催者は責任を負うことはできない。
2. 状況により競技会を中止にする場合がある。その場合は本連盟ホームページに記載するので必ず確認の上、競技会に参加すること。
3. 新型コロナウイルス感染症の影響による中止に伴い、発生した旅費等のキャンセル料等の支払いは行わない。

(2021.10.19改訂版)